

The 2 Chome Times 2023年 4月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO299号

2023年・4月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 4月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★2023 第18回アート作品収蔵式典

4月8日（土）に三宮センター街2丁目商店街振興組合主催の第18回目となるアート作品収蔵式典があり、松島 巖先生の「古代からのバトン」が無事に収蔵されました。今回の



式典ではコロナの影響が薄れた事もあり、ご招待客、一般の通行人の方々も含めて多くの人々にご臨席賜り、久しぶりに活気のある雰囲気となりました。久利理事長が主催者挨拶として「収蔵された18作品の内、4作品がガラス作品であり、



ここに来ればおおよそ現代日本のガラス工芸がわかる」と述べ、その後、感謝状が松島先生に授与されました。松島先生は「美術館ではなく街のストリートに作品を収蔵すると知った時、少し驚いたが、自身の幼少期に井戸に映る空を見て不思議な気持ちがし、この不思議な空間を意識する原体験が今回の作品に繋がった」と語られていました。久元神戸市長も「三宮にもっと沢山の人が来ていただき、魅力を感じて頂けるように取り組みたいと」祝辞を述べられました。今回の作品のみならず、この18作品全ては永きに亘り三宮センター街の「顔」になっていくはずで



（久利理事長・松島先生・久元神戸市長）

★生田神社の神事が4年ぶりに行われました

コロナ化で縮小されていた春の生田祭が今年は4月15日と16日に従来通り開催されました。15日



（土）は例祭並びに氏子奉幣際で16日（日）は生田祭「神幸祭（おわたり）」でした。神幸祭では今年当番地区（該当地域は12に分かれており、1年ごとに各地区で斎行されています）に区」が巡行しました。総勢5が当番地区を練り歩き、御先きの中、猿田彦神役（行列の位除の神）を先頭に、梶原武者、獅子頭、お稚児さん、子供みこし、大人神輿が約1Kmにわたって列をなしました。そしてインフォメーションの辺りに設けられた「神受所」で氏子の繁栄、安寧を願って頂きました。今回のお祭りでは2丁目商店街振興組合副理事長、近藤さんが生田まつり総合実行委員長を果たされ、二日間に亘って精力的に活動されました。ようやく例年の様に活気が戻り、皆様も大いにお祭りを楽しまれた様子で、大いなる喜びでしたが、来年以降もこの伝統あるお祭りが皆様と共に斎行されれば良いですね！



猿田彦神

あたる「元栄海・波止場地00名を越える時代行列太鼓の雄壮かつ軽快な響先頭役で清祇いをする方



（右端が近藤副理事長）

★Thanks 神戸・おきなわドゥングワの会 4年ぶりの開催

神戸の児童養護施設の子供さん達を沖縄へ招待する「KOBE 夢・未来号・沖縄」プロジェクトによって交流を深めてきた沖縄の皆様への“感謝の気持ち”を込めた「Thanks 神戸・おきなわ」が4月10日～12日に実施され、100名を超える神戸の街衆が沖縄を訪問しました。コロナ禍による中断で4年ぶりの開催となった初日の交流会は今回より「ドゥングワの会」(※沖縄の言葉で「友達」を意味する)と名称も新たにし、沖縄からは116名が参加、これまで以上に盛況な宴となりました。交流会の中では京都の日本画家・大野俊明先生が描いた首里城の絵画が沖縄美ら島財団へ寄贈され、お披露目の除幕式では縦90cm×横168cmの大作に感嘆の声と拍手が上がりました。

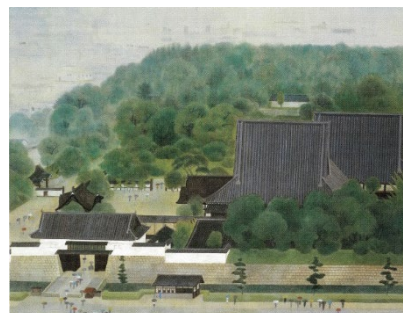


(次の記事で詳細を報告しています)

翌日11日～12日には北部の本部町を観光するツアーが開催され、今年1月の夢・未来号で子供さん達が現地の八重岳に記念植樹した桜の樹を鑑賞しました。まだ花を咲かせてはいないものの、数ヶ月で大きく枝葉を伸ばしており、今後の成長・開花が非常に楽しみです。その他の行程では沖縄美ら海水族館、熱帯ドリームセンター、運天港等を訪れたり、本部町の平良町長、沖縄美ら島財団の花城理事長を表敬訪問するといった貴重な時間を持つことができ、とても充実した3日間となりました。参加された皆様にご心よりお礼申し上げます。

★大野俊明先生の首里城の絵が贈られました

2丁目振興組合とも縁の深い日本画家、大野俊明先生が3年半前に焼失し、現在復興作業中の沖縄、首里城の絵を描かれました。これは沖縄と強い絆を持つ「KOBE三宮・ひと街創り協議会」の久利会長の依頼を快く引き受けて下さり、実現したものです。先生は「地元の人からずっと愛してもらえる絵になれば」と精力的に描いて下さいました。大野先生は京都芸大日本画家専攻科を修了され、現在は成安造形大の名誉教授を務めておられます。1994年には滋賀県近江八幡市の「信長の館」の天守閣内障壁画を復元され、二条城の障壁画模写にも従事され、文化財保護にも貢献してこられました。2009年から「KOBE三宮・ひと街創り協議会」が続けている「KOBE 夢・未来号・沖縄」プロジェクトでは、首里城は必ず訪れる歴史的な建造物であり、久利会長は「首里城は日本の宝。その思いを三宮の街衆から伝えたい」と語られています。首里城は2026年迄には再建される予定になっており、再建後にはこの作品が多くの方々に見える場所に飾られるとの事です。再建される首里城と共にずっとこれから人々の目に焼き付いて行く先生の作品、凄いですよね。(二条城緑雨)



★編集後記

3月にマスク着用が緩和されて以来、各イベントでも声出しが始まり、マスクを付けておられない方も徐々に増えてきました。甲子園球場で行われた春の選抜大会で準優勝した報徳学園の応援団のパフォーマンスは印象的でした。今回で第18回目となる収蔵式典でも、ようやく通常に近い形式になり、春の訪れと共に明るい雰囲気の中で行われ、嬉しい限りです。今回で18作品がこの2丁目に収蔵され、もはや神戸の大事な観光資源になっています。作家先生の方達の中には、この通りにご自身の作品が加えられるのは一つの荣誉ですとまで言って頂いています。5月には2丁目振興組合の定例通常総会が開かれますが、参加される組合員様の人数もかなり増えるのではと予想されています。そこでも改めて「街創り方針は“安心・安全・清潔で、アートの香りが漂う上質で洗練された空間”にある」と再確認されます。一過性のイベントに頼らずに、本質的に街の価値を上げて行く事こそが将来の成功へのパスポートです。今後も皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

